



2025年3月期 決算説明資料

データセクション株式会社

2025年5月27日

証券コード：3905



1. 2025年3月期実績
2. 2025年3月期 計画・実績差
3. 2026年3月期 計画
4. AI関連新規事業
5. 新株予約権の行使状況
6. Appendix

1. 2025年3月期実績

- ・既存事業の体質改善、新規AIデータセンター事業構築の両方にフォーカス
- ・既存事業に関しては、国内事業全領域における受注の堅調な推移に加え、7月1日付で完全子会社化したMSS社の寄与により、増収（前年比+32.0%）

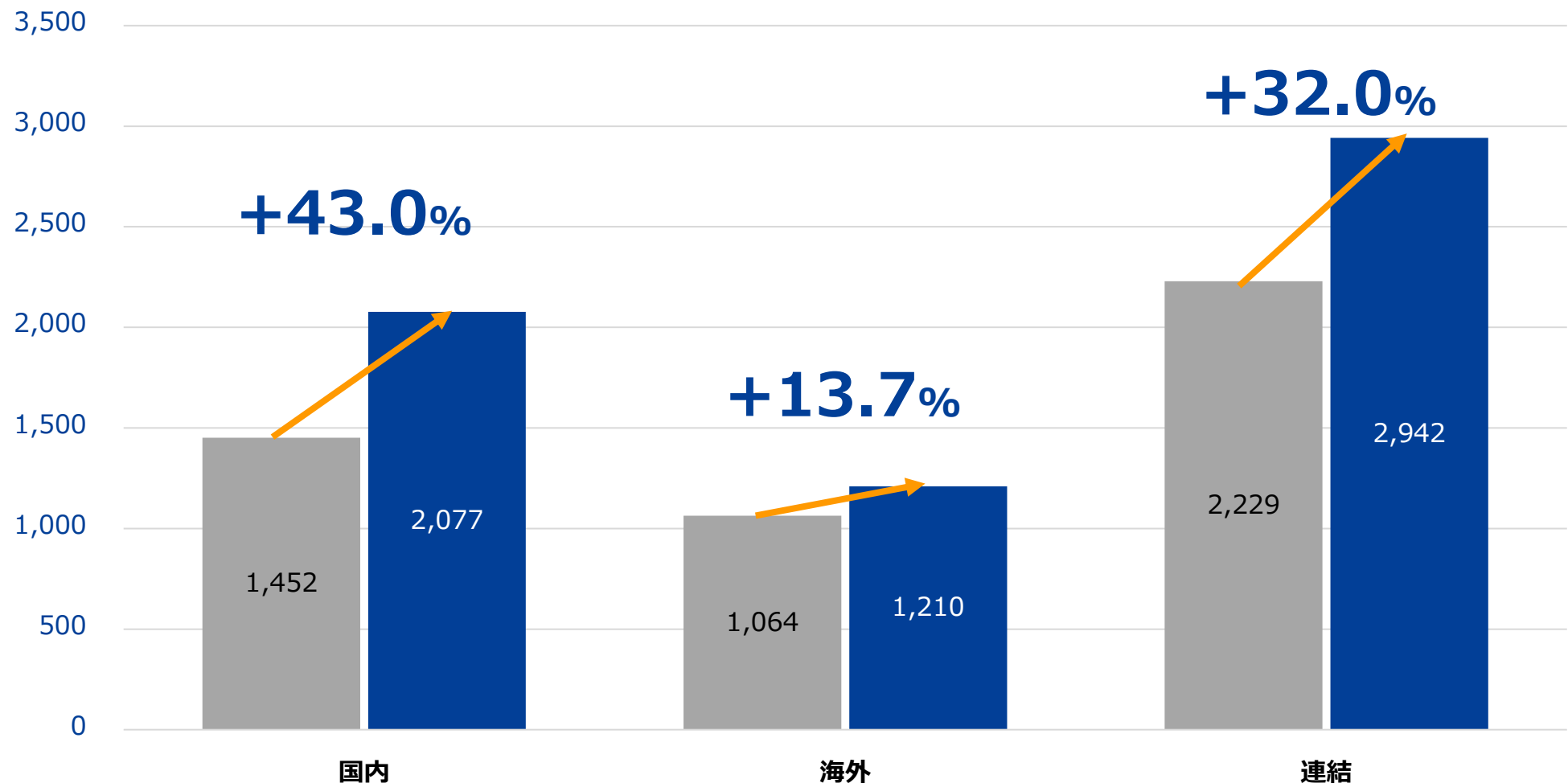
(百万円)	25年3月期 実績値	前年対比	
		実績	差分
売上高	2,942	2,229	+713
営業利益	▲496	▲216	▲279
(新規事業関連費用除く 営業利益)	▲119	▲216	+96
調整後 EBITDA*	▲169	47	▲216
(新規事業関連費用除く 調整後EBITDA)	206	47	+159
経常利益	▲613	▲235	▲378
親会社純利益	▲654	▲1,251	+597

(*) 調整後EBITDA：営業利益＋減価償却費＋無形固定資産償却費＋株式報酬費用＋M&A関連費用

- ・ 国内・海外ともに成長を継続
- ・ 既存事業のポートフォリオ転換計画どおり、国内事業が成長を牽引

（単位：百万円）

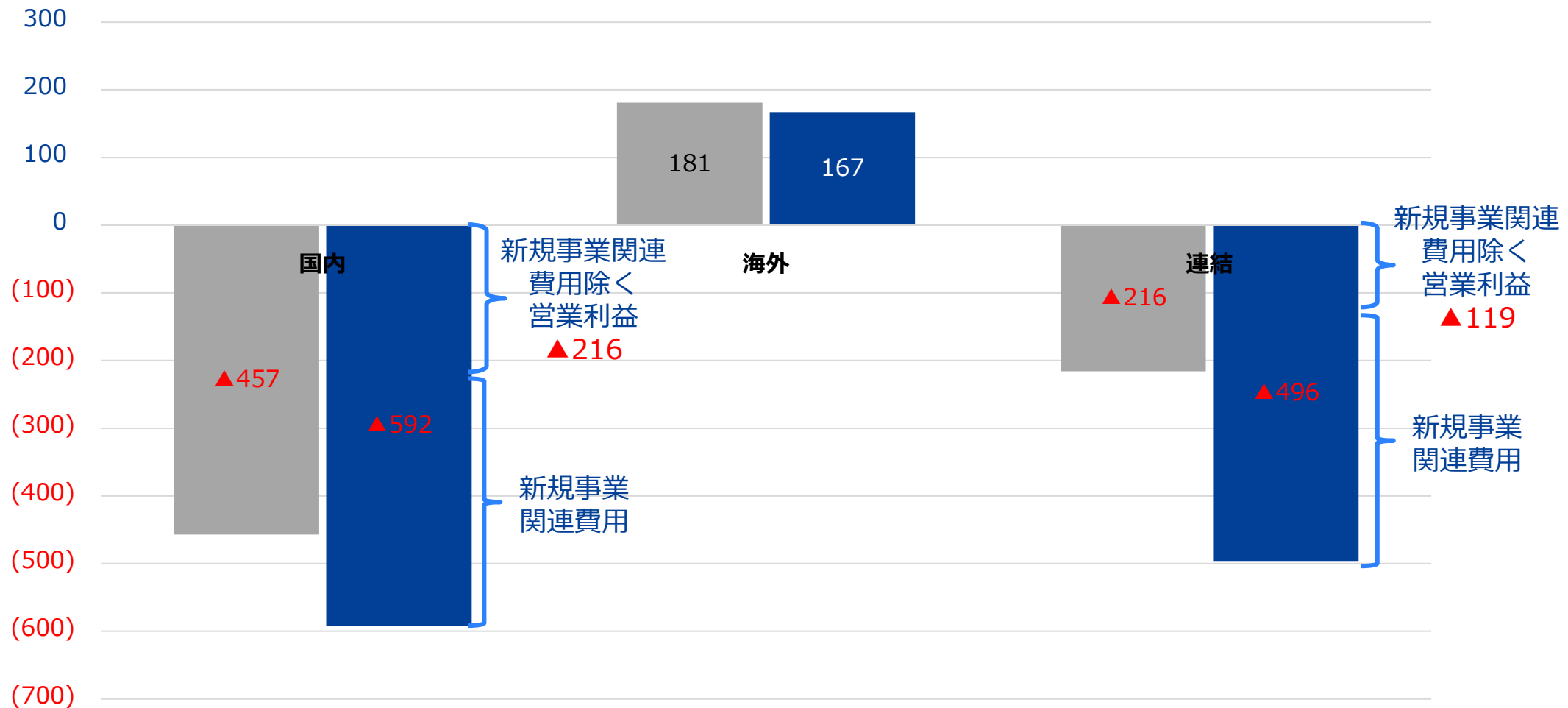
■ 24年3月期 ■ 25年3月期



- ・ AIデータセンター事業において、業績予想に織り込んでいた「ファンド投資型」より収益性の高い「直接投資型」の案件を優先し、25年3月期はファンド運営者報酬（以下、「GP報酬」）をあげず
- ・ 海外は、過年度のソフトウェア開発の償却負担を要因に減益となるも、計画の範囲内

（単位：百万円）

■ 24年3月期 ■ 25年3月期

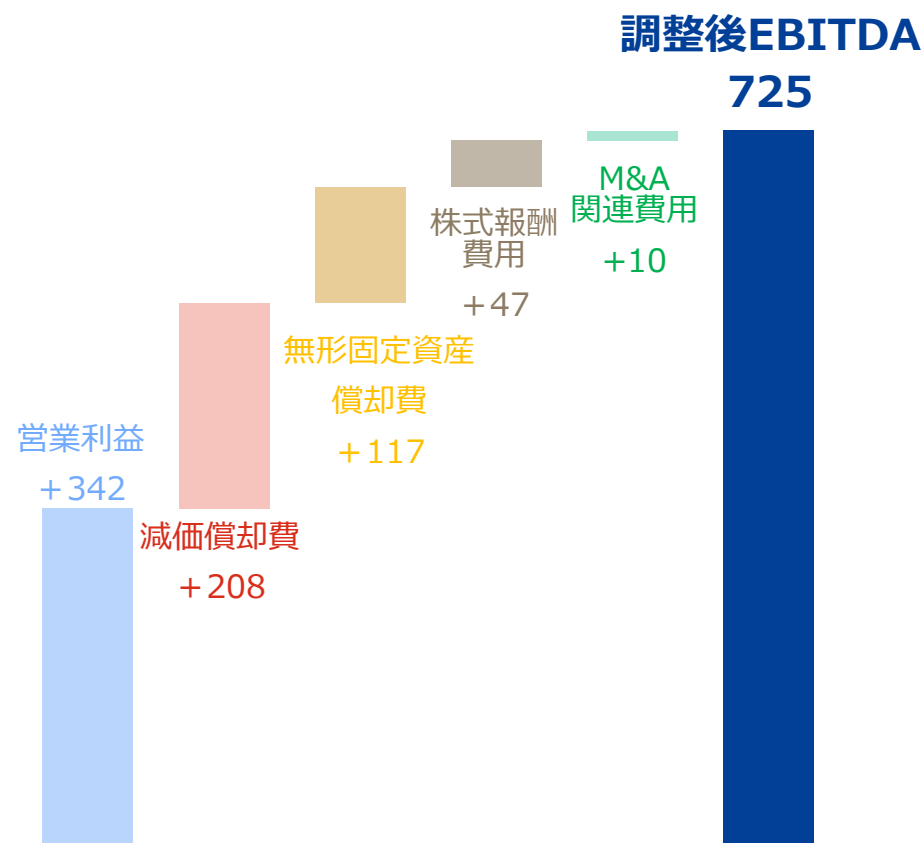


・実質的なCF創出力を示す調整後EBITDAは、年度ベースで赤字（後述）

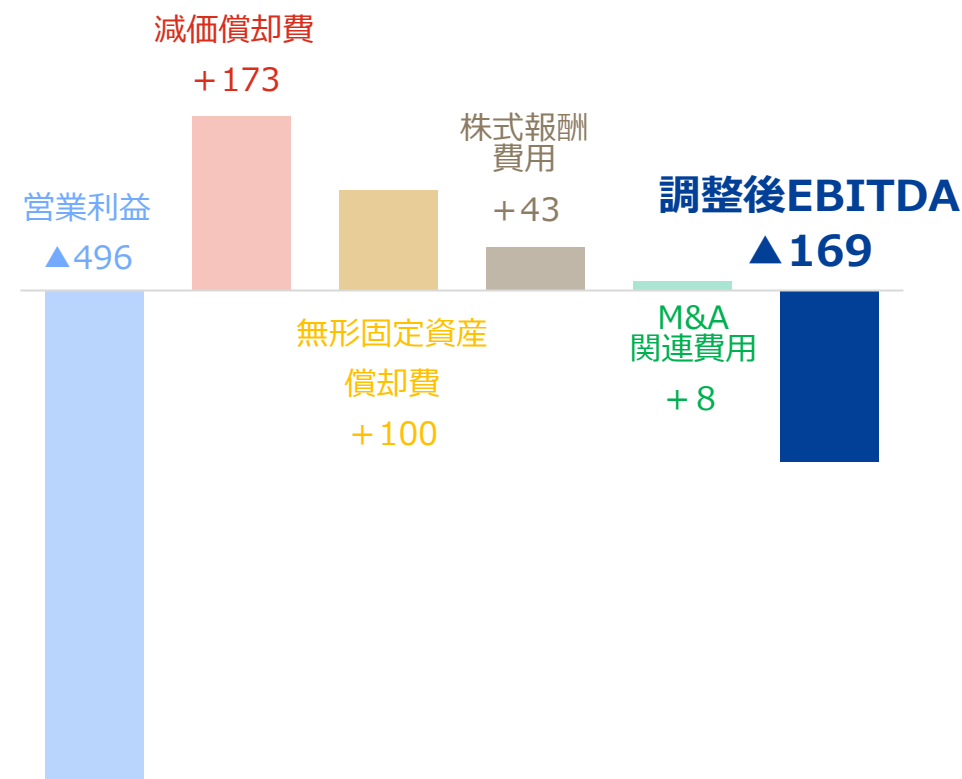
※調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 無形固定資産償却費 + 株式報酬費用 + M&A 関連費用

<25年3月期 上方修正後計画>

(単位：百万円)



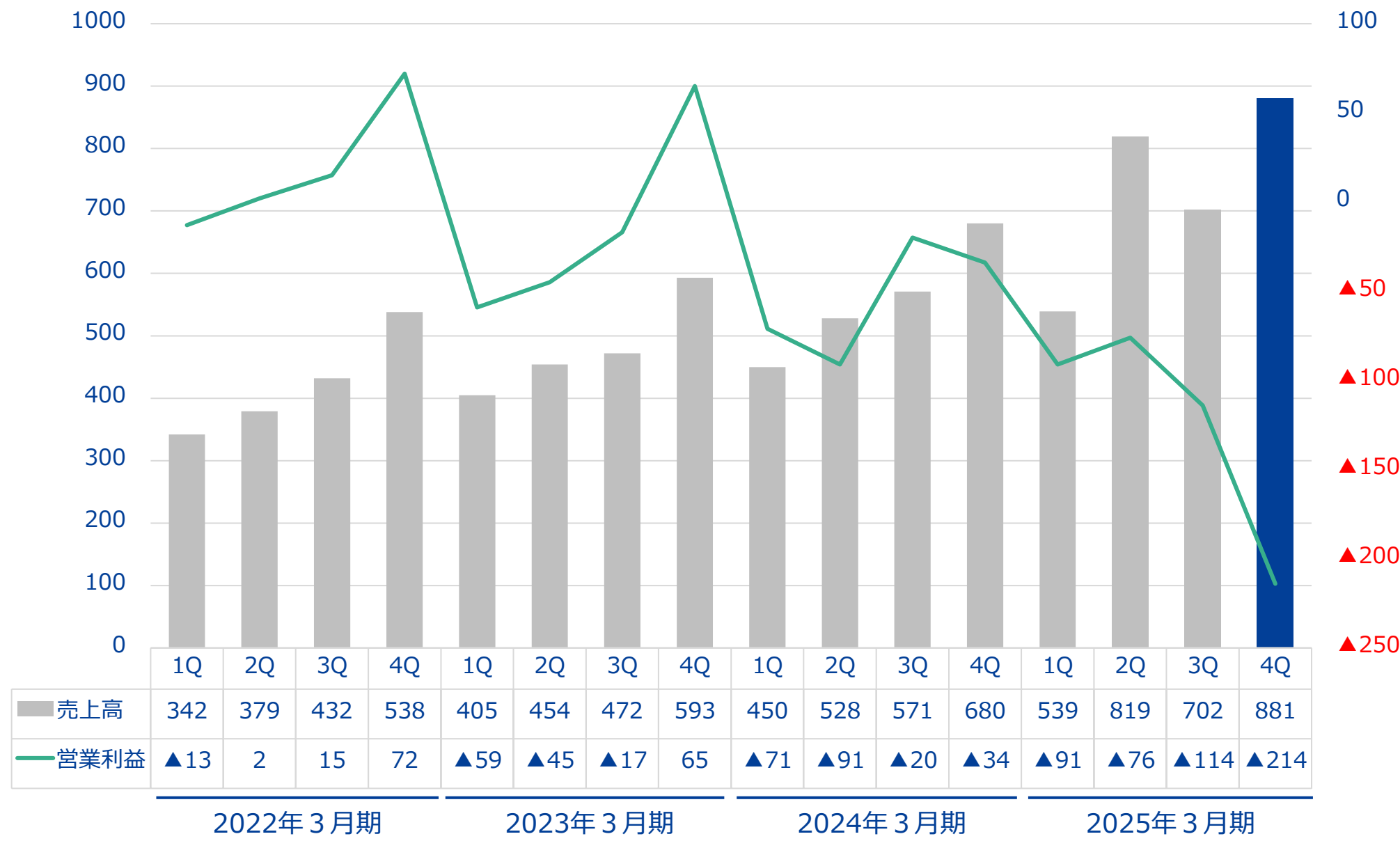
<25年3月期 実績>



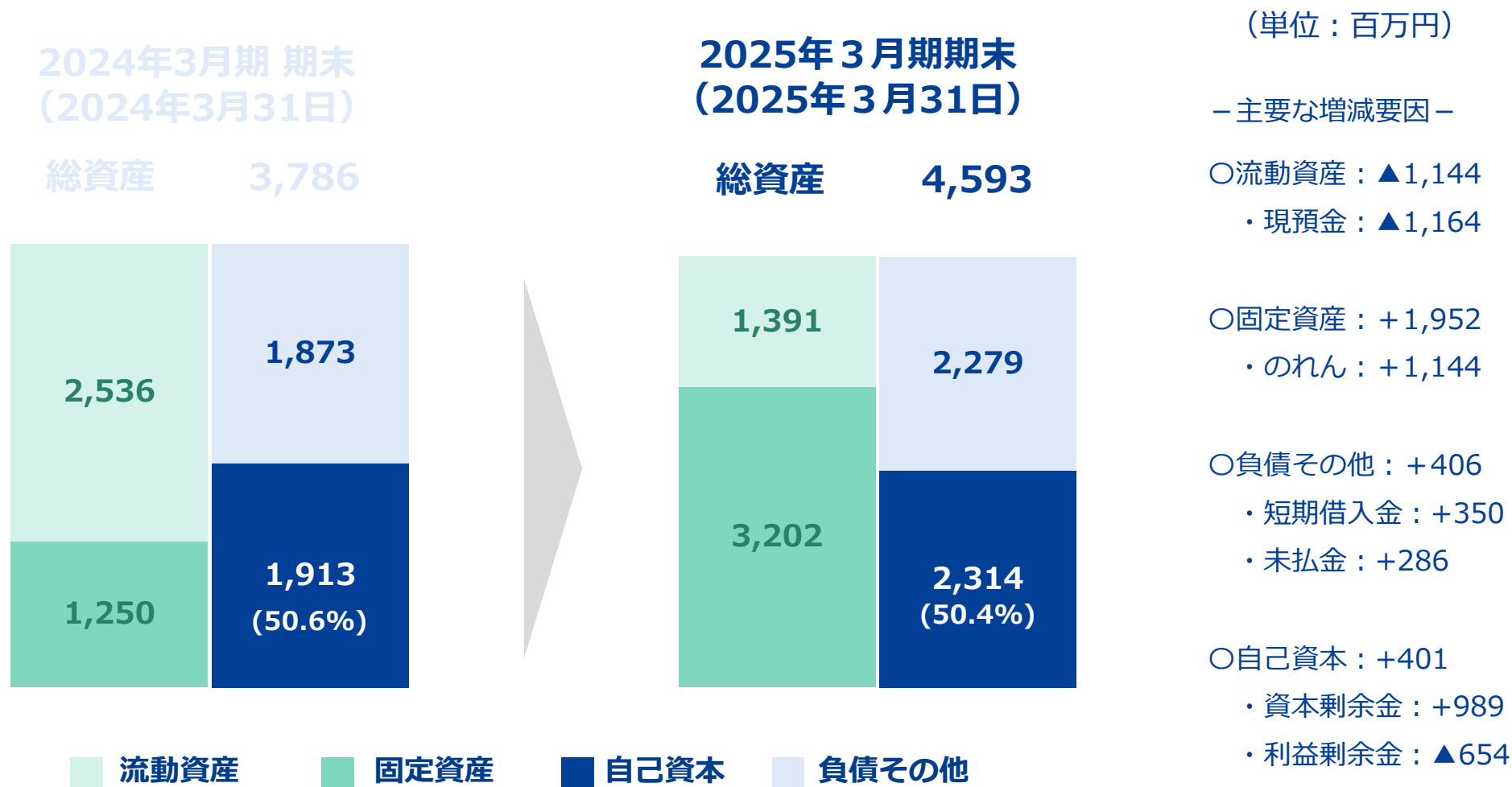
四半期毎売上高・営業利益推移（連結）

1. 2025年3月期実績

（単位：百万円）



- 7月1日付で買収したMSS社ののれんを計上（BS連結：1Q末、PL連結：2Q初）した関係で、総資産が増加

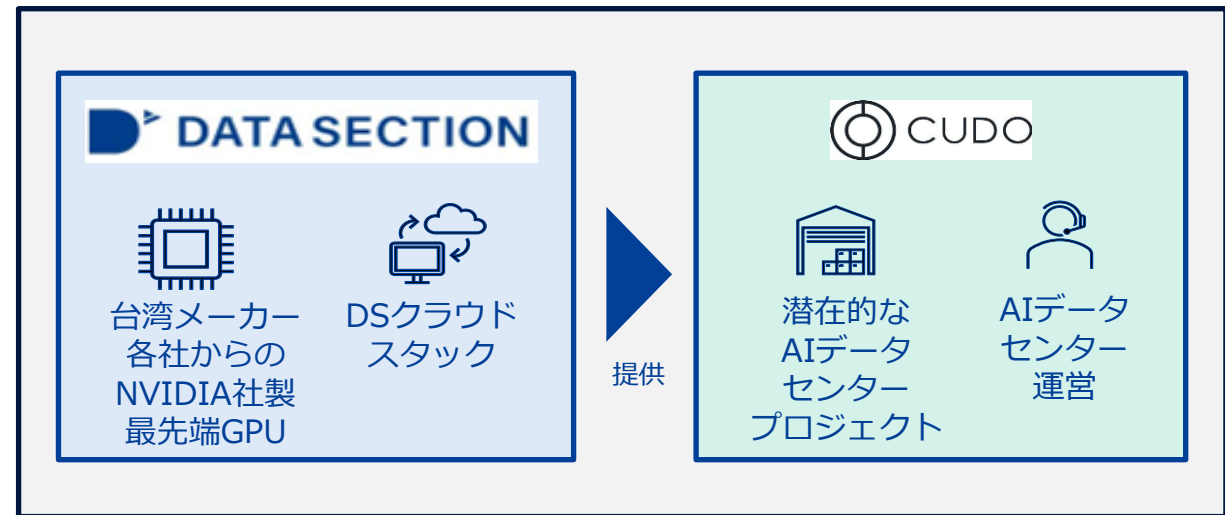


- ・ NVIDIA社認定のAIパートナー（NVIDIA Cloud Partner、以下「NCP」）のCUDO Ventures（以下「CUDO社」）とAIデータセンター事業にかかる業務提携契約を締結、両者間の資本提携についても協議中
- ・ 本提携により、NVIDIA社製最先端GPU確保と、当社のDSクラウドスタックの早期提供が可能に

CUDO社の概要

- ・ 英国所在
- ・ NVIDIA社認定のNCPとして、AIクラウドスタックとデータセンターインフラにの高い技術力を有する
- ・ AI用に何千ものNVIDIA社のGPUを米国、中東・アフリカ、ヨーロッパ、アジアで管理・運用しており、GPUaaS、ストレージ、ネットワーキング、マネージドサービス提供
- ・ ２０２４年５月にNCP認定を受けて以来、AIデータセンターの業容拡大が加速

本提携の内容



- ・ CUDOとの提携によりAIデータセンターの稼働へ向けた必須要素全てが早期に揃う
- ・ CUDO社が運営を行う潜在的プロジェクトに、NVIDIA社製最先端GPUの確保、当社のDSクラウドスタックを早期に提供可能に

- ・ 大規模クラスターのAIデータセンターをハイパースケーラーと同様に運用可能とする、クラウドスタックの開発・構築を推進
- ・ 顧客によるテストを段階的に行い、３月末から正式ローンチ
- ・ DSの独自開発によるクラウド・スタックの名称は、『TAIZA』に決定

■ DSクラウドスタックの名称
『TAIZA』

■ 主な機能

- ・ AI向け大規模GPUクラスターの運用最適化アルゴリズム
- ・ 様々なAIモデルのAPI連携による推論
- ・ プライベートクラウド上での運用 など

2. 2025年3月期 計画・実績差

- ・ AIデータセンター事業において、GP報酬による収益計上が見込まれる「ファンド投資型」を当初想定していたが、より収益性の高い「直接投資型」の案件を優先
- ・ 直接投資型の案件において当初想定していたGP報酬を上回るテスト収益の計上を見込んでいたものの、顧客との交渉の結果、案件稼働時からの収益計上になり、新規事業分の先行投資が収益を圧迫する形に
- ・ 但し、これにより26年3月期は、より収益性の高い「直接投資型」の立ち上がりを見込む

(百万円)	25年3月期 実績	25年3月期業績予想		実績の差分	
		当初	8月14日 修正後	金額	増減率
売上高	2,942	2,650	3,312	▲370	▲11.2%
営業利益	▲496	80	342	▲838	—
調整後EBITDA	▲169	425	725	▲894	—
経常利益	▲613	55	317	▲930	—
親会社純利益	▲654	17	217	▲881	—

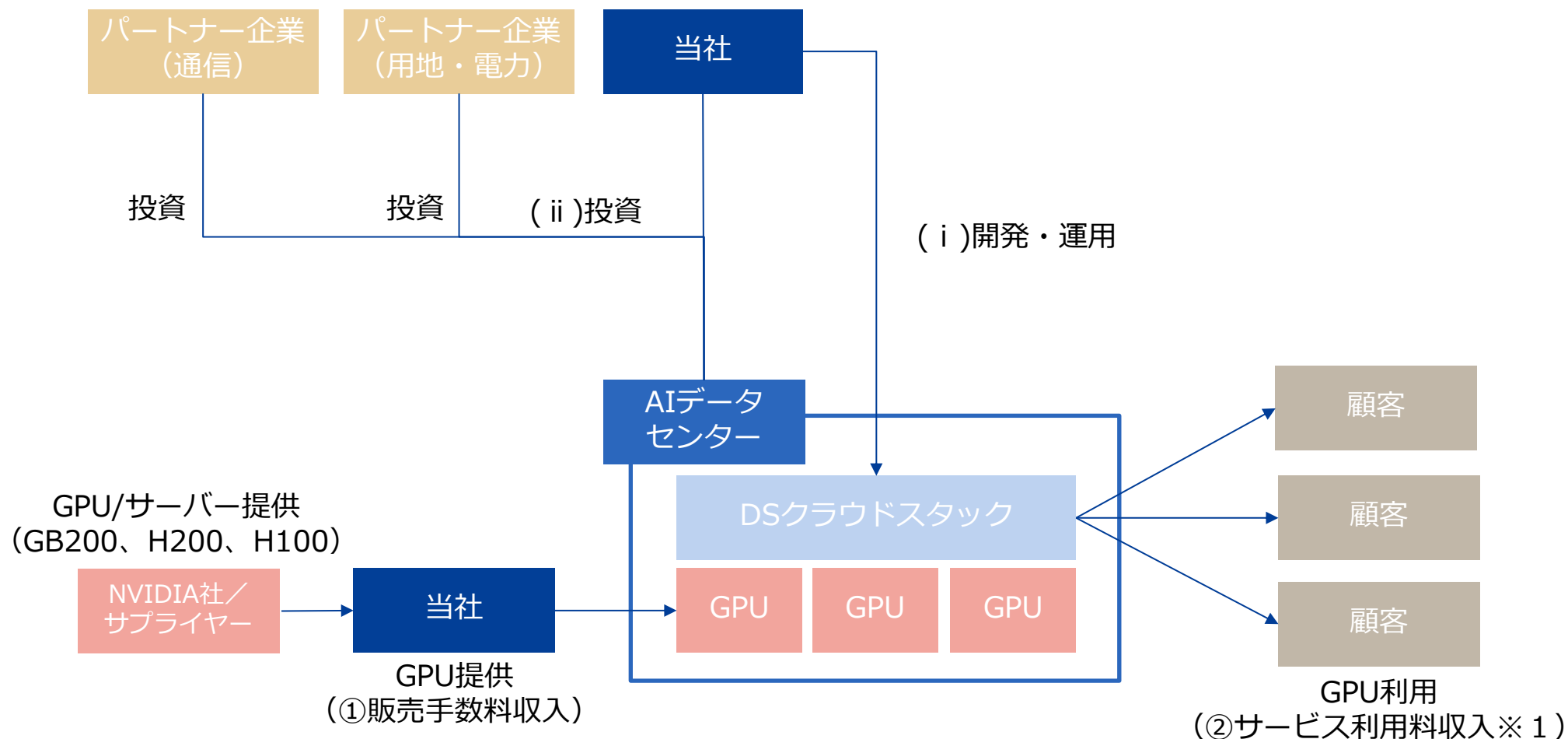
- ・ DS AI Infrastructure Global Investment Fundの設立準備が進捗し、期中の事業開始・GP報酬の収受が見込まれること及び、MSS社の連結子会社化による業績影響見直しによる8月14日開示の業績見通しから修正なし

(百万円)	24年3月期 実績	25年3月期業績予想			
		当初	8月14日 修正後	差分 (金額)	差分 (増減率)
売上高	2,229	2,650	3,312	+ 1,083	18.9%
営業利益	▲216	80	342	+ 558	—
調整後EBITDA	47	425	725	+ 678	797.0%
経常利益	▲235	55	317	+ 552	—
親会社純利益	▲1,261	17	217	+ 1,478	—

(百万円)	当初計画	修正計画	増減	補足説明
売上高	2,650	3,312	+662	・ GP報酬：4Qからアセットの50%の運用開始 (@145円) GP報酬の50%を当社グループで収受と想定 売上高：USD2B×@145円×1/4Q×報酬水準2% ×当社グループ収受50%×アセット掛目50% = 362.5M 営業利益：売上高に20%のコストがかかる想定 = 362.5M×80% = 290M ・ MSS寄与：見込増加分を反映 現状見込 売上高：750M (当初+300M) 営業利益：10M (当初+10M) のれん：12年償却とし算出 (当初+38M) * 負担増
営業利益	80	342	+262	
調整後 EBITDA	425	725	+300	
経常利益	55	317	+262	・ 借入減少と為替変動減少 (株主ローン相殺のため) により、 営業外は変更せず
親会社 純利益	17	217	+200	・ 増益に合わせトータルで実効税率30%に調整

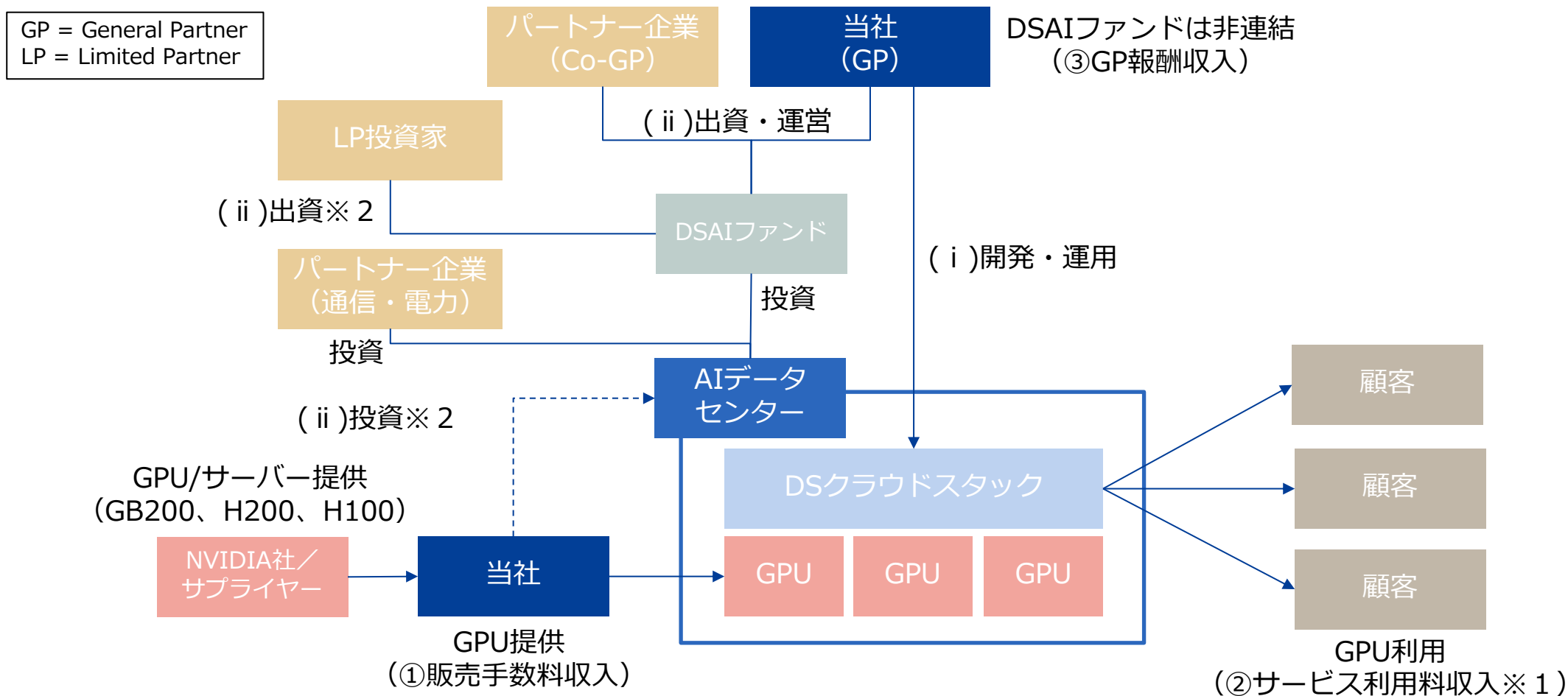
- DS AI Infrastructure Global Investment Fundの設立準備の進捗により、売上高362百万円を今期に計上する見込み
- MSSの連結子会社化により、売上高が300百万円上回見込み
- 連結売上高は、前回発表予想を662百万円上回る3,312百万円となる見込み

- ・ AIデータセンターを直接投資型の場合は、2パターンの売上構造
- ・ AIデータセンター投資からのリターン



※1 顧客のGPU利用によるサービス利用料収入は、当社とAIデータセンターでシェア

- ・ AIデータセンターをファンドから支援する場合は、3パターンの売上構造
- ・ DSAIファンド投資からのリターン



- ※1 顧客のGPU利用によるサービス利用料収入は、当社とAIデータセンターでシェア
- ※2 当社が直接投資するAIデータセンターもDSAIファンドの投資対象となる可能性あり

3. 2026年3月期 計画

- ・ いよいよAIデータセンター事業が立ち上がり、新たな成長フェーズ
- ・ AIデータセンターの案件毎の収益規模が大きく、業績に与える影響を踏まえて、現時点で業績予想は非開示
- ・ 契約協議中 1 案件（日本国内でNVIDIA社製のB200を5,000個（サーバー625台））を中心に、本年度内に立ち上げ予定の複数案件が進んでいるが、詳細がそれぞれ確定し、適正かつ合理的な数値の算出が可能となった段階で業績予想は開示および都度修正
- ・ また、上記案件に加えて、同規模の1案件も契約協議中。更なる大型案件を含む、国内外での進行中の複数案件あり（次ページ参照）

(百万円)	25年3月期 実績	26年 3 月期業績予想		
		金額	差分 (金額)	差分 (増減率)
売上高	2,942	非開示		
営業利益	▲496			
調整後EBITDA	▲169			
経常利益	▲613			
親会社純利益	▲654			

(*) 調整後EBITDA : 営業利益 + 減価償却費 + 無形固定資産償却費 + 株式報酬費用 + M&A関連費用

- ・ **グローバルでの旺盛な需要を受け、年度内に、国内外で複数案件を同時に進め、今期中に業界における圧倒的な競争優位性を確立していく。今後、GB200の大規模導入も進め、AIスーパークラスターの構築を目指す**

- プロジェクトA： B200 5,000個（契約協議中）
- プロジェクトB： B200 5,000個（契約協議中）
- プロジェクトC： B200 2万～4万個規模
- プロジェクトD： GB200 1,000ラック規模（7万個）
- プロジェクトE： GB200 1500ラック規模（10万個）
- プロジェクトF： . . .
などの案件に取り組み中

（ご参考）

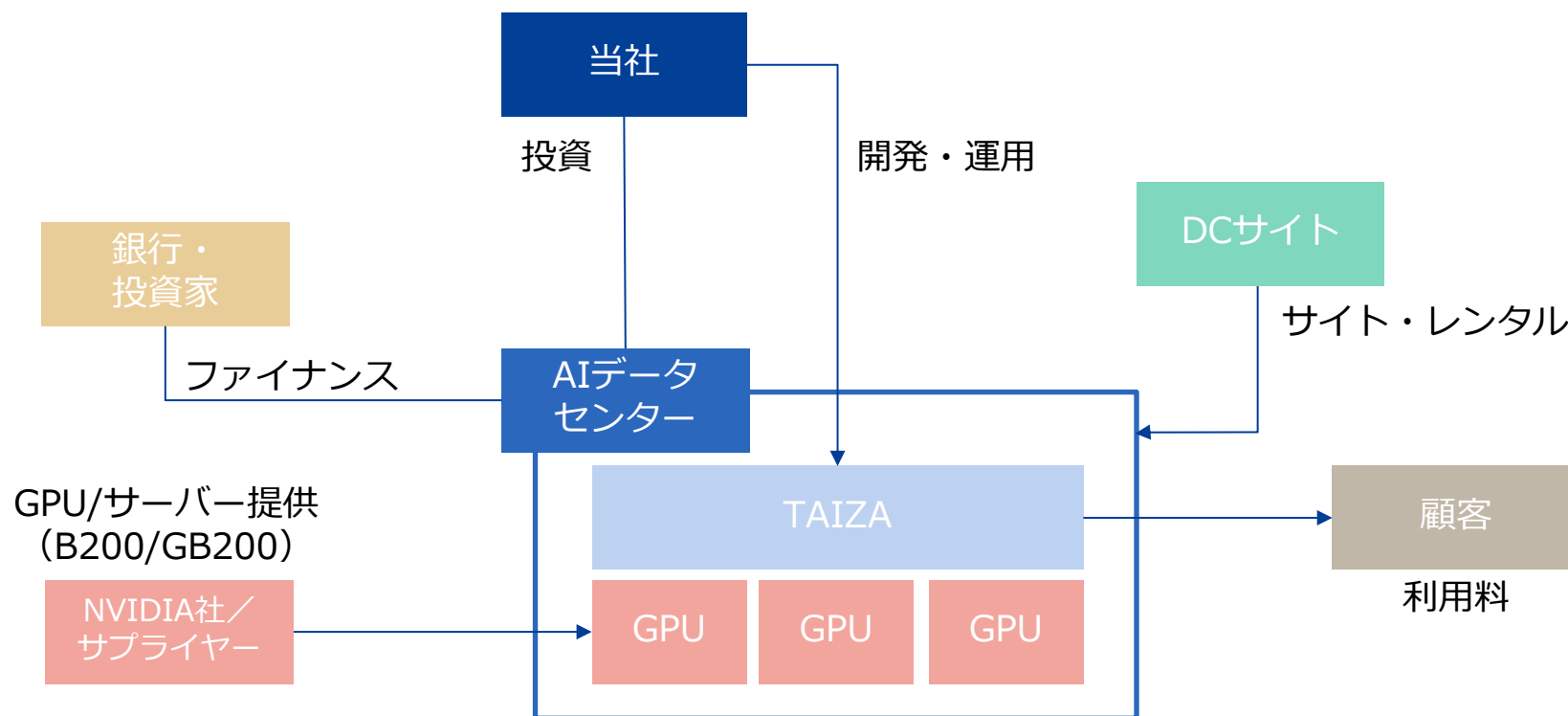
さくらインターネット株式会社：高火力PHY（NVIDIAのGPUを搭載した物理的なサーバー 1 台を丸ごと提供するサービス）
NVIDIA H100 Tensor コアGPU × 8 の3年間コミット使用料：2,436,896円/月 ※H100 1 個あたり304,612円/月*

B200は、日本でも導入が進んでいるH100と比較して、3 倍のトレーニングパフォーマンス、15倍の推論パフォーマンスを実現**

* 出典：さくらインターネット株式会社のウェブサイト「さくらの高火力GPUクラウド」紹介ページ

** 出典：NVIDIAのウェブサイト「NVIDIA DGX B200」紹介ページ

- ・ 今期（26年3月期）予想に含む第1号のAIデータセンター案件は「直接投資型」を想定
- ・ 当社の計上する収益は「TAIZAの利用料」となる
- ・ 一方で、アップフロントでの顧客から一部代金受け取りやプロジェクトに対する融資確保等によりAIデータセンター構築費を自前で確保することで、収益を最大化。外部資金を活用する「ファンド投資型」よりも当社収益の最大化が可能。そのため第1号案件は「直接投資型」である、以下のストラクチャーを採用
- ・ 今後、顧客、案件特性、案件規模、パートナーなどに応じて、柔軟にAI事業ストラクチャーを検討



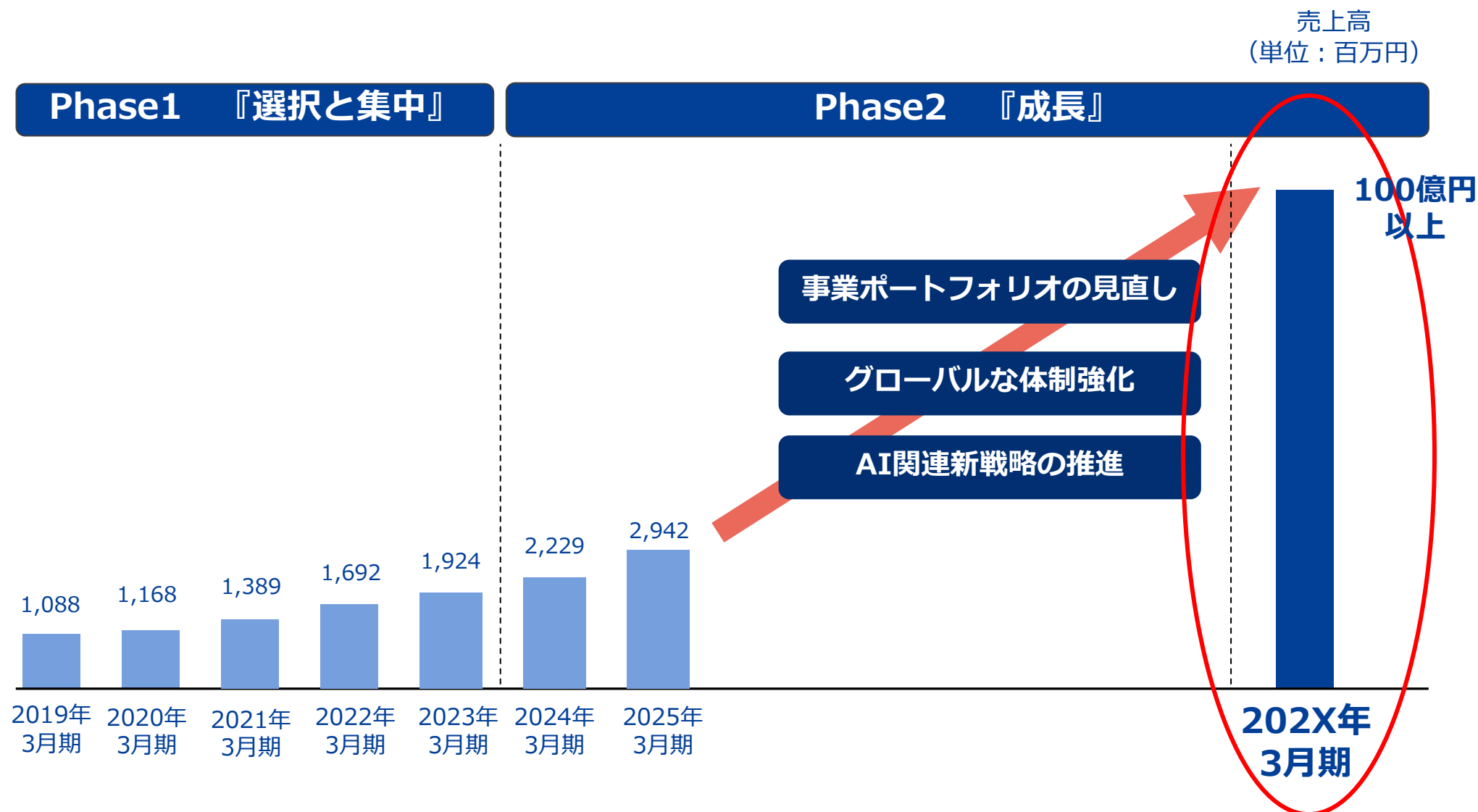
- ・世界的にGPUへの需要が高まる環境下において、GPU獲得競争は一段と激化している。一方で、日本企業は、GPU獲得競争において後れを取り、国内AIインフラ構築は、未だ期待された成果を見せていない
そのなか、当社第1号となるAIデータセンターでは、NVIDIA製次世代GPUアーキテクチャ「Blackwell」を採用したB200を5,000個配備することで、現段階で、日本国内そしてアジアにおいても最大規模のパフォーマンスを有するAIデータセンター構築を予定
- ・B200は、日本でも導入が進んでいるH100と比較して、3倍のトレーニングパフォーマンス、15倍の推論パフォーマンスを実現*
- ・今期、積極的にB200及びGB200の導入を進めるが、プロジェクトを構成する様々な要因から、大規模クラスターの構築を実現できるのは、日本企業としては当社のみ（サプライヤーとのパートナーシップ戦略により、B200を5,000個確保可能な調達力は、国内企業としては圧倒的）
- ・大規模クラスターの運用を可能とする「TAIZA」が、業界での優位性を更にけん引。「TAIZA」はグローバル顧客によるテストを経て、高い評価を受けている

特殊な地政学的環境下において、日本で世界規模のAIインフラを構築することで、デジタル赤字を改善し、あらゆるセクターでの経済成長を後押しする

*出典：NVIDIAのウェブサイト「NVIDIA DGX B200」紹介ページ

4. AI関連新規事業

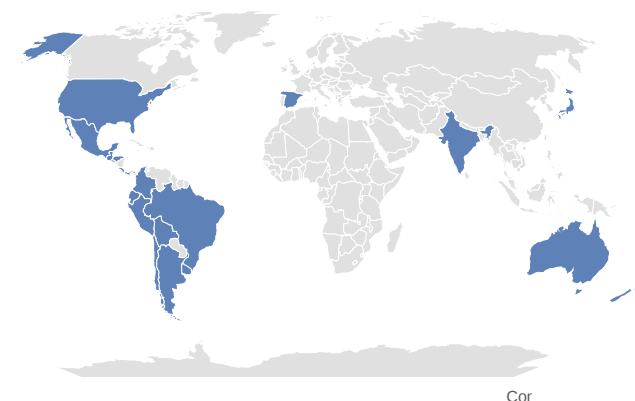
『選択と集中』から『成長』フェーズへ AI関連新戦略の推進



強力なグローバルプレゼンスと
独自のビジネスプランをベースに、
AI市場でのリーディングカンパニーを目指す

- 新規事業を加速する上で不可欠な技術確保を加速
 - ・ 優秀なエンジニアリングリソース確保
 - ・ AIクラウドサービス向けプラットフォーム開発
- AI業界で強力なパートナーシップ・ネットワークを有する
- 2024年6月3日にアジア最大規模のAIデータセンター開発を合意
- 今後もグローバルにAIデータセンターの建設と運営を追求

当社のグローバル展開



当社は20か国以上へ自社プロダクト展開の
事業基盤を有する

日本
インド
オーストラリア
ニュージーランド
チリ
コロンビア
ペルー
アルゼンチン
エクアドル
ボリビア
ブラジル
ウルグアイ

パナマ
グアテマラ
ホンジュラス
エルサルバドル
コスタリカ
スペイン
メキシコ
米国・・・

AIデータセンター事業を取り巻く環境

	AIデータセンターに必要な主要機能	業界が直面するチャレンジ
開発時	 GPU	NVIDIA社製品が市場で逼迫
	 サーバー等 周辺機器	NVIDIA社のパートナーメーカーの 生産キャパシティが逼迫
	 土地・設備	ゼロから開発する場合3年以上かかる
	 EPC	建設ラッシュで建設業者を確保できない
運営 開始後	 AIクラウド運営	ハイパースケーラー級の最高効率・ 操作性のプラットフォームは開発が困難
	 データセンター 運営	最新機器を運転できる知見を有する 企業が限られる
	 電力	電力容量が日本中で逼迫
	 顧客開拓	競合に先んじて機能をテストしないと、 大規模な顧客を確保は難しい

当社は、AIデータセンター事業が直面するチャレンジを克服することで、ハイパースケーラーに対しても競合優位性を獲得していく

データセンター事業のチャレンジ

データセクションの戦略

実現したビジネスモデル



以下課題を解決できる事業者のみがデータセンター事業で成功

- 政治リスクを回避しながら、GPU・サーバーを確保可能か
- AIデータセンターの基盤ソフトウェアの技術開発力を有しているか
- 速い速度で開発・建設を終えることが可能か
- 大量の電力キャパシティが確保できるか

技術を軸とした戦略的提携で業界のボトルネックを抑え、最速で事業化実現

- 1 台湾の強豪メーカーとパートナーシップを構築、優先的にGPU確保
- 2 2014年上場以降、技術者がAIクラウドを更に強化
- 3 業界経験を有する建設事業者と協業し、早期にキャパ計画を構築
- 4 電源はあるが稼働停止している工場をリパーパスする手法を確立

当社の戦略により、すでに以下の実績を実現済み

- NVIDIA社の台湾の委託製造パートナー4社とGPU確保に関し協業で合意
- AIモデルの推論、GPUの効率を最大限発揮させるクラウドスタック『TAIZA』を開発
- 欧州・アジアで実績を持つCUDOやSSIと業務提携
- 堺やスペインで、既存工場をリパーパスするAIデータセンターの建設に合意

2024年11月15日／11月21日／12月2日／12月23日

NVIDIA社のパートナーサプライヤーである台湾メーカー4社と業務提携の基本合意。
大阪府堺市やスペイン向けを始めとしたGPUサーバーラックについて、製造キャパシティを継続協議

NVIDIA社はパートナーのサーバーメーカーが存在



サーバー調達の分散化とボリューム確保状況 (サーバーサプライヤー別の交渉状況)



プラットフォーム・ 開発者・ コミュニティ・ Shop ドライバー・ お問い合わせ NVIDIA について・

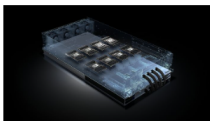
NVIDIA と世界有数のサーバー メーカーが パートナーを組み、AI クラウド コンピュ ーティングを推進

Foxconn、Inventec、Quanta、Wistron が NVIDIA HGX リファレンス ア ーキテクチャを利用し、ハイパースケールデータ センター向け AI システ ムを構築

台湾、台北 Computex -- (2017 年 5 月 30 日) - NVIDIA (NASDAQ: NVDA) は、より迅速に AI クラウド コンピュ
ーティングの需要に応えるため、**世界有数の ODM である Foxconn、Inventec、Quanta、Wistron とのパートナー
プログラムを開始しました。**

NVIDIA HGX パートナー プログラムを通じ、NVIDIA は、各 ODM に NVIDIA HGX リファレンス アーキテクチャ、
NVIDIA GPU コンピューティング テクノロジー、デザイン ガイドラインの早期アクセスを提供します。HGX は、
Microsoft の Project Olympus の取り組み、Facebook の Big Basin システム、NVIDIA DGX-1™ AI スーパーコン
ピューターにおいて利用されているのと同じデータ センター向けに設計されています。

HGX をスターター向けの「レシピ」として利用する ODM パートナーは、NVIDIA と協力し、ハイパースケールデ
ータ センター向けの条件を満たす、さまざまな GPU アクセラレーテッド システムをより迅速に設計し、市場化す
ることができます。NVIDIA のエンジニアは、このプログラムを通じて ODM とより緊密に協力し、技術の採用か
ら実動環境への展開までの時間が最短になるよう支援します。



NVIDIA HGX リファレンス アーキテクチャ



2024/4/12

Inventec

(売上高2兆3,642億円, 2023)



2024/11/15

wistron

(売上高3兆9,824億円, 2023)



2024/11/21

**GIGA
COMPUTING**



2024/12/2



Quanta Computer

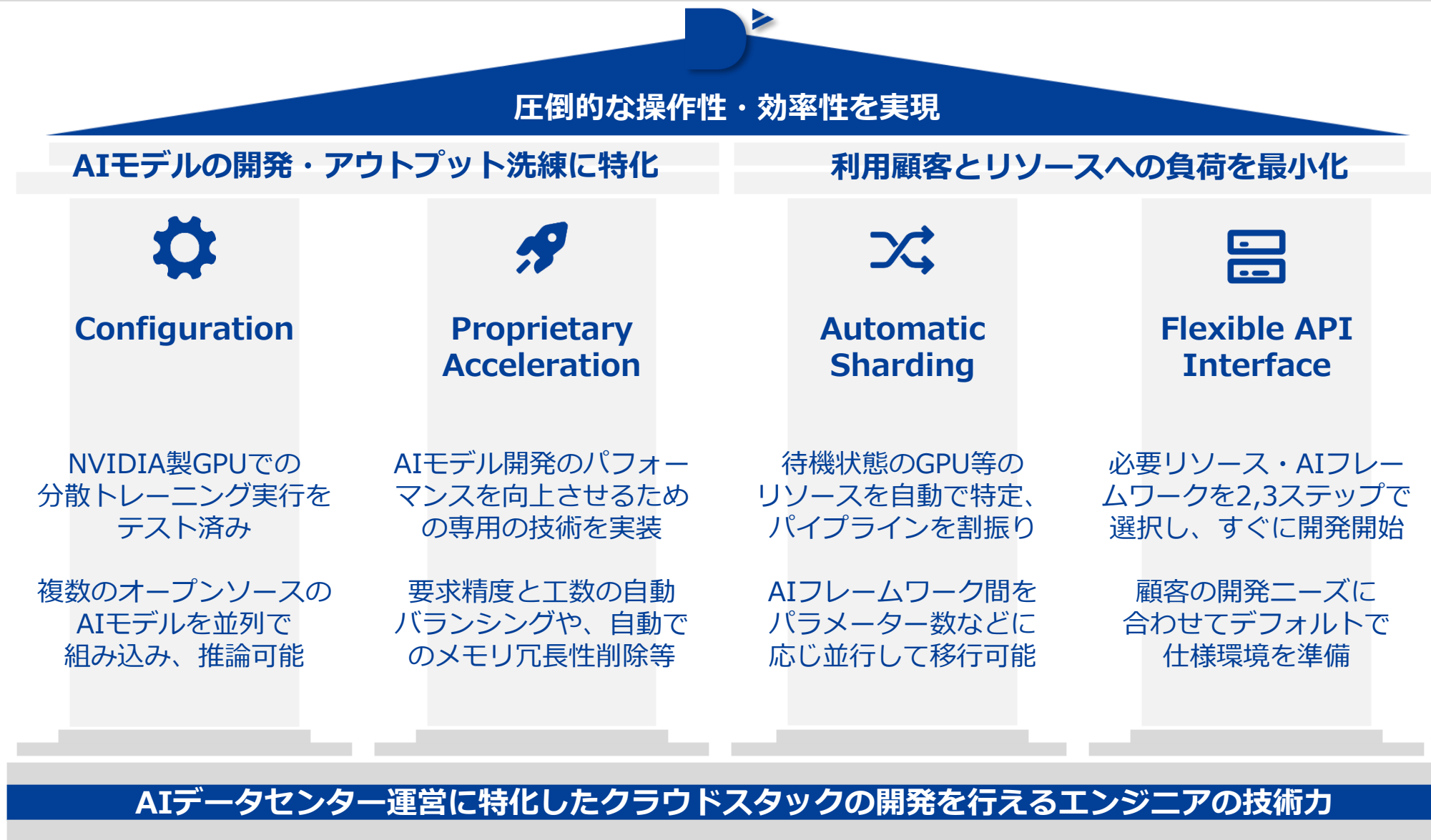
(売上高4兆9,86億円, 2023)



2024/12/23

2025年3月31日

オープンソースなAIモデルを使用しての推論（AIモデル同士で出力結果の検証・洗練の推進）が、効率的、柔軟、手軽に出来る初めてのクラウド基盤ソフトウェア。顧客による段階的なテストも実施



2024年10月 7 日

データセンター設計・建設の実績・ノウハウを持つSSI社と、AIデータセンターの設計、調達、建設および運営に関するEPC（Engineering Procurement and Construction）の業務提携に関する基本合意を締結

経営によるコメント

- データセンター設計・建設の実績・ノウハウを持つ SSI社と本基本合意を締結し、AIデータセンターの設計・建設・運営におけるリーディングカンパニーとして、革新的なソリューション提供を目指し、次世代のAIデータセンターのスタンダードを確立し、より持続可能で効率的なサービスの提供を実現します
- 本基本合意に基づき、SSI社は当社のEPCコントラクターとして共同で日本国内外でのAIデータセンターの設計、調達、建設、運営に関する業務を担うこととなります。また、SSI は AI データセンター建設後の運用・保守業務も担当し、新たなAIデータセンタープロジェクトの組成、資金調達、推進にも取り組みます

(1) 名称	株式会社信越科学産業	
(2) 所在地	長野県長野市大字南長野西後町610-12 R-DEPOT3階N-西	
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役会長 小坂 幸太郎 代表取締役社長 佐坂 五郎	
(4) 事業内容	・データセンター設計・建設	
(5) 資本金	999万円	
(6) 設立年月日	2015年12月28日	
(7) 大株主及び持株比率	SSIとの秘密保持義務により非開示とさせていただきます。	
(8) 上場会社と当該会社との関係	資本関係	該当事項はありません。
	人的関係	該当事項はありません。
	取引関係	該当事項はありません。
	関連当事者への該当状況	該当事項はありません。
(9) 経営成績及び財政状態	SSIとの秘密保持義務により非開示とさせていただきます。	

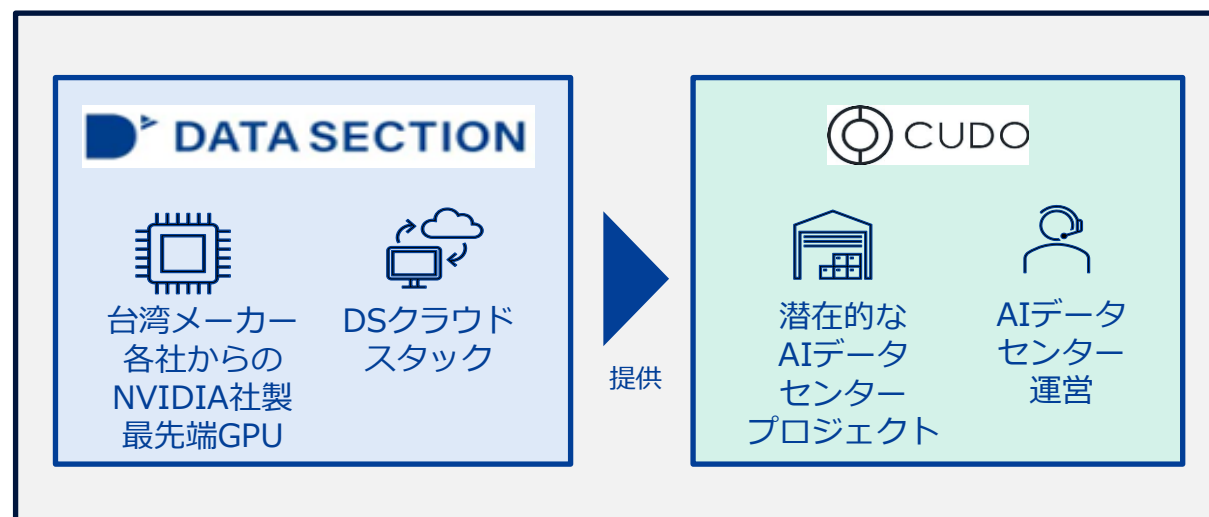
2025年2月6日

NVIDIA社認定のAIパートナー（NVIDIA Cloud Partner、以下「NCP」）のCUDO Ventures（以下「CUDO社」）とAIデータセンター事業にかかる業務提携契約を締結、両者間の資本提携についても協議中。本提携により、NVIDIA社製最先端GPU確保と、当社のDSクラウドスタックの早期提供が可能に

CUDO社の概要

- 英国所在
- NVIDIA社認定のNCPとして、AIクラウドスタックとデータセンターインフラにの高い技術力を有する
- AI用に何千ものNVIDIA社のGPUを米国、中東・アフリカ、ヨーロッパ、アジアで管理・運用しており、GPUaaS、ストレージ、ネットワーキング、マネージドサービス提供
- 2024年5月にNCP認定を受けて以来、AIデータセンターの業容拡大が加速

本提携の内容



- CUDOとの提携によりAIデータセンターの稼働へ向けた必須要素全てが早期に揃う
- CUDO社が運営を行う潜在的プロジェクトに、NVIDIA社製最先端GPUの確保、当社のDSクラウドスタックを早期に提供可能に

2025年3月10日

大規模インフラ、クラウド、大規模AIイニシアティブを中心にクラウド&データセンター領域で20年以上のリーダーシップ経験を持ち、様々な著名企業で重役を担ってきたJuan Manuel (Juancho) Irigaray 氏（以下「Juancho氏」）を招へい

■ Juancho 氏の当社グループへの参画

- ・ 当社グループにおけるヨーロッパを中心に世界でのAIデータセンター事業の拡大・成長に向けた取り組みをさらに加速
- ・ Juancho氏はMicrosoft、Amazon Web Services、Equinixなどの企業でCレベルの戦略的役割を担い、数百万米ドル規模のプロジェクトを指揮
- ・ Juancho氏はオピニオンリーダーとしても知られており、AWS re:Invent、Kubecon、MoneyLIVE Digital Conferenceなどの国際会議でクラウド専門家として講演

■ Juancho氏の略歴

- ・ Microsoft :
カントリーエンジニアリード- Azure 拡大および国向け Microsoft クラウド
- ・ Amazon Web Services, スペインおよびデンマーク :
スペインのパートナーマネジメントソリューションアーキテクトチーム責任者およびデンマークのエンタープライズセグメント責任者
- ・ Equinix, EMEA :
プロフェッショナルサービスおよびグローバルソリューションアーキテクト ディレクター
- ・ CloudMas, CTO 兼共同創業者 :
クラウドテクノロジーおよびビジネス開発チームを率い、AWS市場の開拓を主導し、スペイン初のAWSプレミアパートナーとなる

- ・ GPU確保、及びプロジェクト開発に必要となる資金調達のためファンドは設立済み
- ・ プロジェクトの状況に応じて検討

	項目	詳細
1	名称	DS AI Infrastructure Global Investment Fund
2	所在地	ケイマン籍
3	組成目的	グローバルでのAIデータセンターへの出資 (ファンドはAIデータセンターを運営する会社の株式を保有)
4	組成日	プロジェクトの状況に応じて検討
5	ファンド出資	目標20億米ドル
6	General Partner (GP)	名称
		DS AI Investment (仮称)
		投資チーム
		■ Pablo Casado Blanco (当社会長) ■ 石原紀彦 (当社代表取締役社長CEO) ■ Matias Jurado Alvarez 他
		アドバイザリーボード
		HE Anders Fogh Rasmussen (NATO元事務総長、デンマーク元首相) 他
		Co-GP
		欧州系銀行がCo-GPとして参加を検討中
		GP出資額
		ファンド総額の1.0% (キャピタルコール方式*)
		GP報酬
		■ ファンド総額の2.0% (年率) ■ キャリドインタレストの20.0% (8.0%のハードルレート)
7	Limited Partner (LP)	主に欧州銀行、AIデータセンターの連携パートナー企業を中心に投資予定

* キャピタルコール方式：ファンドの投資進捗に応じて、出資コミットメント金額の範囲内で段階的に資金提供



既存プロジェクト実現を通じた
安定収益の獲得

2025年3月期

- 技術検証、サービス体制構築、顧客契約締結
- DSAIファンドの形成による実行資金の確保、GPロールの開始
- 国内外のデータセンター事業運用開始、売上計上を目指す

現行ビジネスモデルのグローバル
拡大による成長

2026年3月期

- 第1号データセンター事業運用開始および型紙化と、国内外での更なる案件の積み上げ
- アルゴリズムの進化と、冷却技術の開発協力により、高効率なAIデータセンター運営の手法を確立
- プロジェクトの状況に応じて、ファンドを通じた資金調達の拡大

AIデータセンター事業の対象顧客
の拡大、および資産を入れ替え

2027年3月期以降

- 現行ビジネスモデルの規模・安全性進化により、安全保障上不可欠となる国家プロジェクトへの参画 (欧州・米国・日本)
- 借入・株式・ファンド等の手法を通じて資金調達を最大化し、ハイパースケーラーのポジションを確立
- 資産の入れ替えと、中古サーバーの再利用を通じてさらなる事業拡大・継続

* 太線および下線部箇所：前回より更新

5. 新株予約権の行使状況

- 第20回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行
- 資金需要や市場環境等を勘案し、より柔軟かつ機動的な資金調達を行うとともに、既存株主の持分の希薄化への影響に配慮しながら自己資本を増強することが可能な設計

第20回新株予約権（行使価額修正条項付き）	
割当先	ハヤテマネジメント株式会社 （以下「ハヤテ」）
基準株価	688円
当初行使価額	688円 ※基準株価の100%
行使価額の修正	直前取引日の終値×90%（1円未満切り上げ）
下限行使価額	344円 ※基準株価×50%
発行価額	総額15,488,000円（1個当たり3.52円）
発行新株予約権数	44,000個（1個当たり100株）
行使期間	2025年3月7日～2026年3月6日（1年間）
調達予定金額*	3,009,200,000円 @ 当初行使価額 = 688円 1,495,600,000円 @ 下限行使価額 = 344円
希薄化率**	24.85%
資金使途	(1)DSクラウドスタックの開発・構築資金 (2)AIデータセンター運営関連の合併会社向け出資、DSAIファンド向け出資 (3)採用費、人件費、手元資金等の運転資金 (4)借入金返済

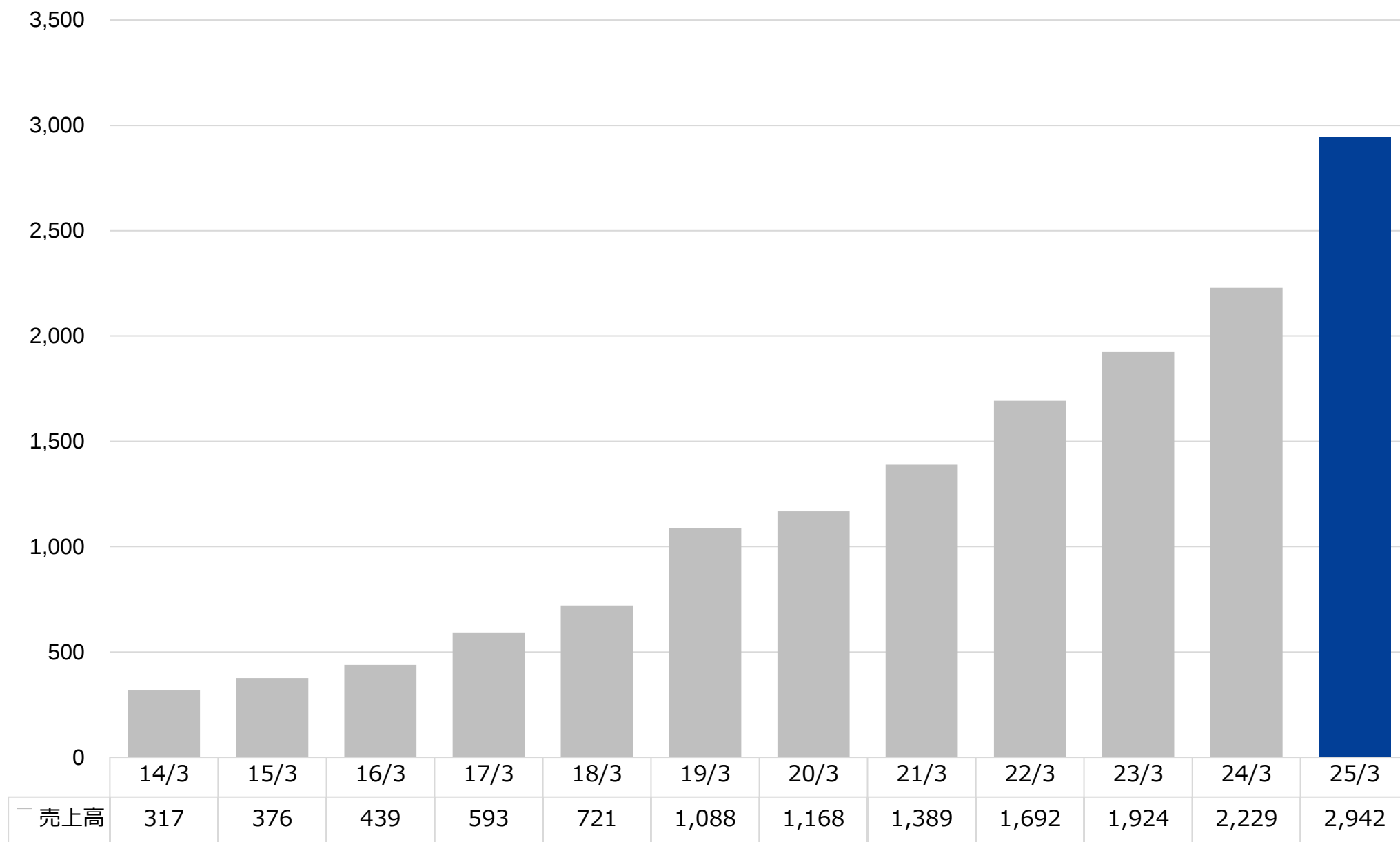
* 当初行使価額×総発行株数－発行諸費用概算で算出。発行価額の総額は、割当予定先の当社に対する貸付債権との相殺による払込みとなるため、調達予定金額には含まず

** 本新株予約権がすべて行使された場合に交付される株式数4,400,000株（議決権の数44,000個）となり、2025年2月13日現在の当社の発行済株式総数17,703,051株（2024年9月30日（当社が総議決権を確認できる本発行決議日から最も近い日）現在の総議決権数176,279個）に占める割合が24.85%（議決権ベースの希薄化率は24.96%、いずれも小数点以下第3位を切り捨て）に相当

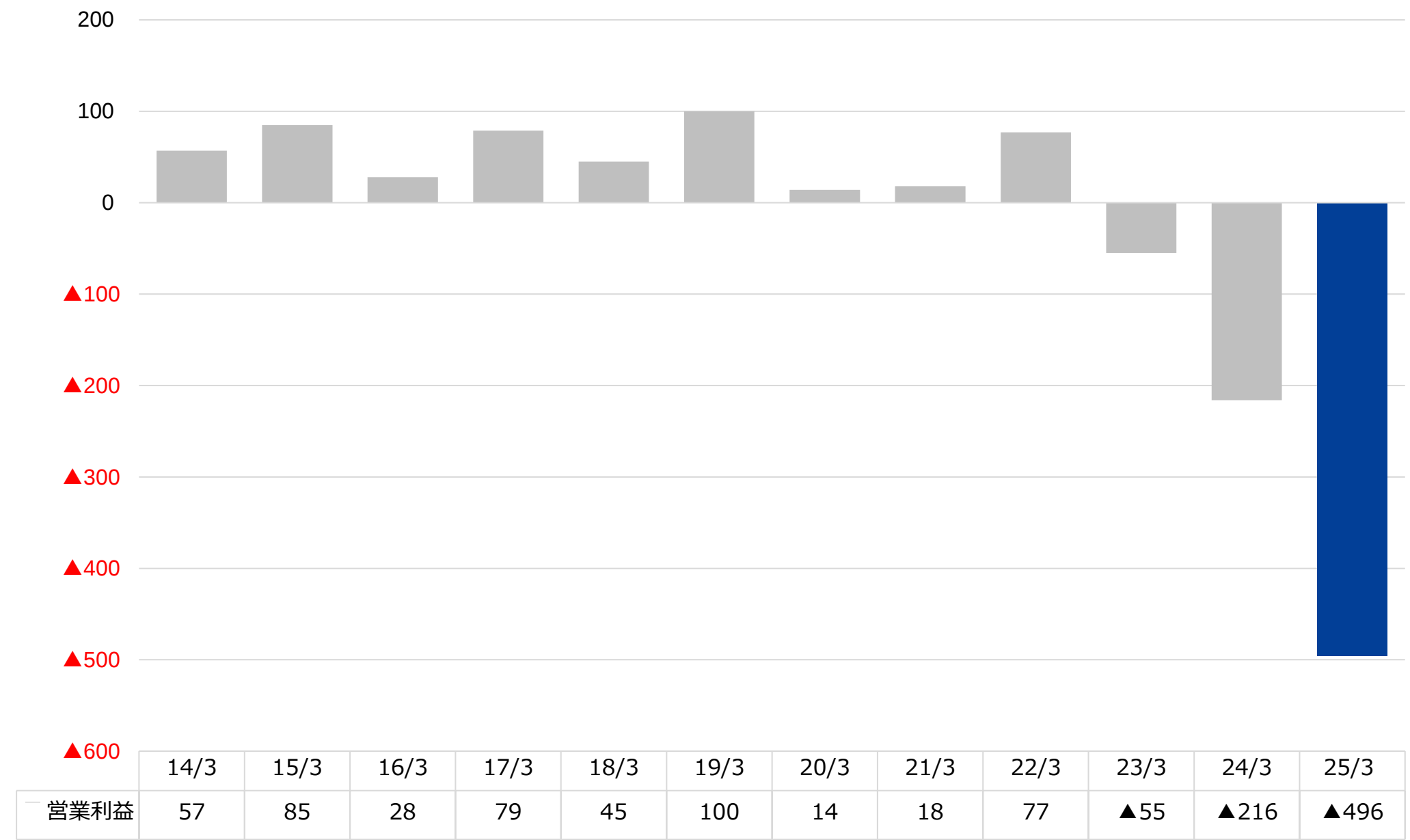
- 第20回新株予約権（行使価額修正条項付）の公表済み行使状況まとめ
- 2025年3月7日以降：
合計395,100株（発行総数割合8.98%）、295,204,052円の払込金額
 - 2025年3月7日～31日：92,900株（発行総数割合2.11%）、87,267,608円
 - 2025年4月1日～31日：302,200株（発行総数割合6.87%）、207,936,444円

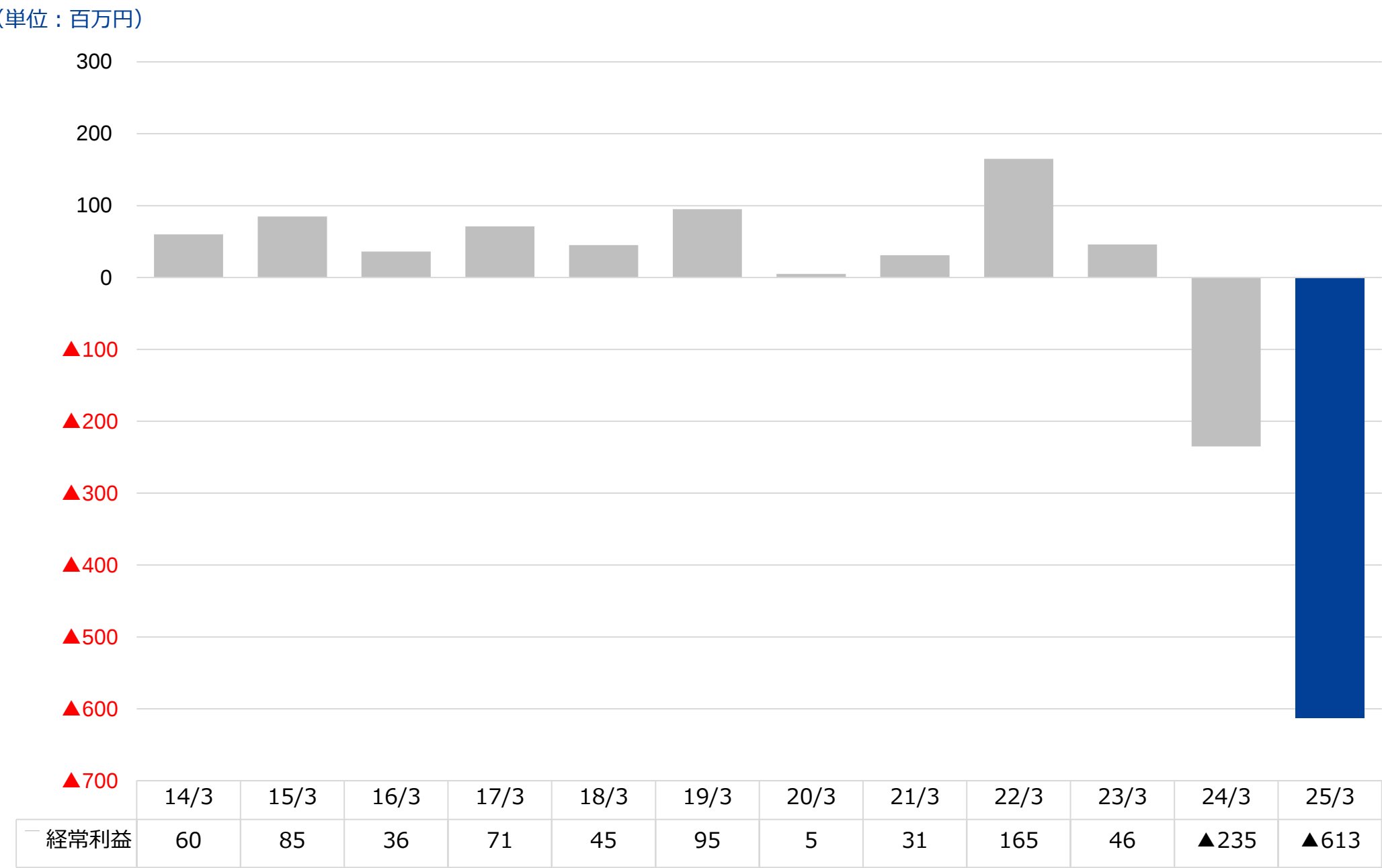
6 . Appendix

(単位：百万円)

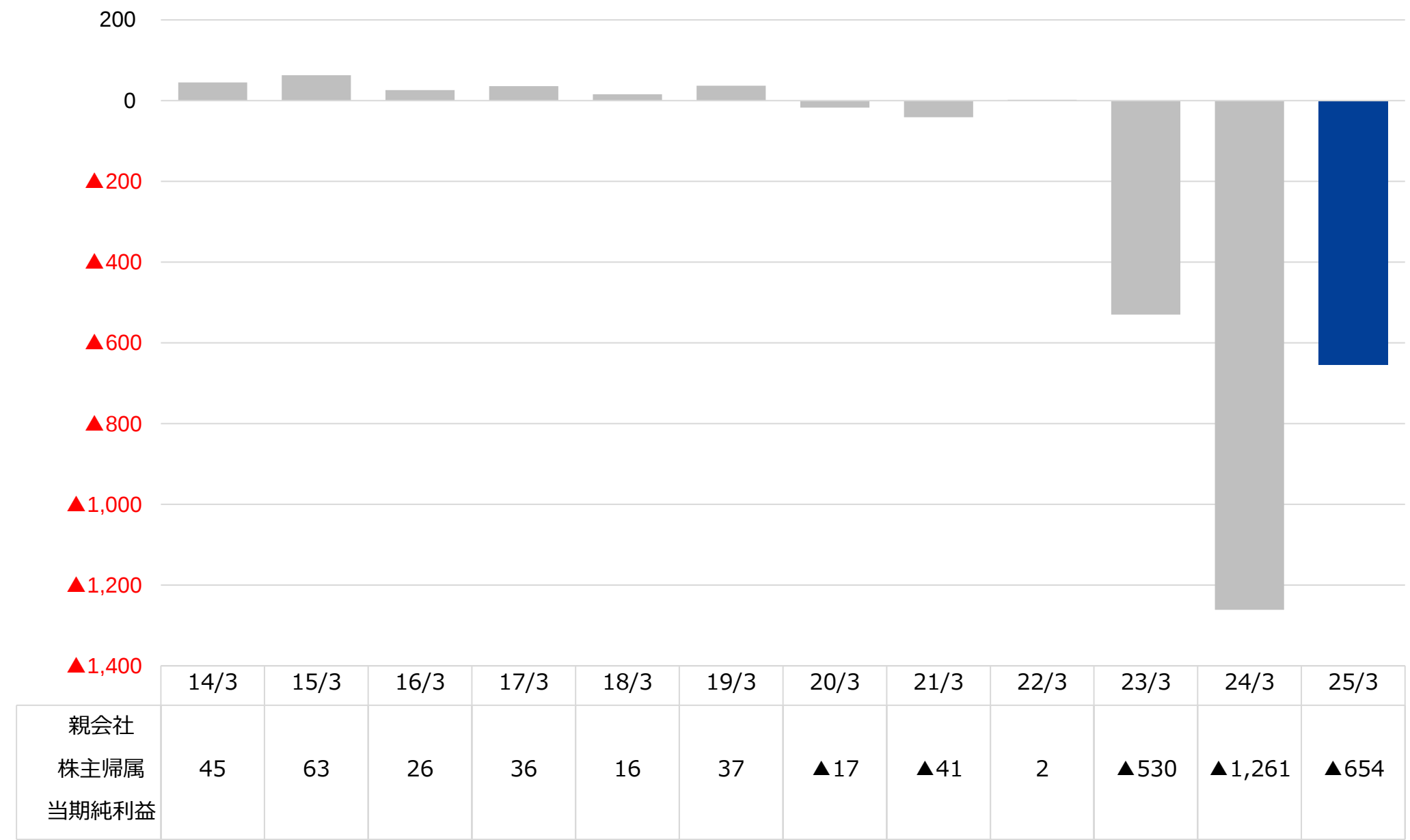


(単位：百万円)





(単位：百万円)





データセクション株式会社

ir@datasection.co.jp
03-6427-2565

〒141-0031

東京都品川区西五反田 1 丁目 3 - 8 五反田PLACE 8階

<https://www.datasection.co.jp>

注意事項

- 本資料は投資家の参考に資するため、当社の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しで、リスクや不確実性を含んでおり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。従いまして、これらの業績予想のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。